

令和2年度第2回常総市公共交通活性化協議会 会議要旨

■開催

令和2年10月6日（火）午後2：00～3：25 常総市役所議会棟2階大会議室

■出席

委員：篠崎委員（自治区長連絡協議会）、秋場委員（常総地区交通安全母の会連合会）、沼尻委員（シルバークラブ連絡協議会）、倉持委員（市議会）、遠藤委員（市議会）、◎鈴木委員（筑波大学）、鈴木委員（茨城運輸支局）、牧瀬委員（茨城運輸支局）、根岸委員代理（県交通政策課）、大郷委員（常総警察署）、小林委員代理（関東鉄道㈱鉄道部）、岡野委員代理（関東鉄道㈱自動車部）、相山委員（㈱アイヤマ観光）、谷田部委員（関東労組）、木村委員代理（市商工会）、細谷委員（市社会福祉協議会）、宇都宮委員（筑波キングス・ガーデン）、小林委員（市長公室長）、吉原委員（保健福祉部長）、小島委員（産業振興部長）、木村委員（都市建設部長）

※◎：議長

事務局：小林市民と共に考える課長、渡邊補佐、江面係長、大崎主任、富山主幹、鈴木主事（記録者）
深谷係長（市社会福祉協議会）
城平氏（㈱ケー・シー・エス）

■内容

報告第1号 予約型乗合交通ふれあい号の利用状況について

議案第1号 地域公共交通計画の策定について

■協議内容（◆：議長、●：委員、▲：事務局）

開会 午後2：00

【報告第1号】

- ◆ 昨年度の7割程度の利用率という理解でよろしいか。
- ▲ 85.1人が60.0人なので、お見込みのとおり。
- ◆ 主な利用目的地が変わっていないことから、必要な方にとっては重要な移動手段だと思う。利用者も

若干ながら回復している。

【議案第1号】

※骨子案69ページまで説明

- 課題解決に向けた、各施策の具体的なスケジュールを聞かせてほしい。
- ▲ 本日配布した資料に施策の具体的内容とともにスケジュールを記載しているので、後ほど説明する。

- ◆ 立地適正化計画も策定中かと思うが、互いに参照しあうことが望ましいと感じる。状況はどうか。
- ▲ 計画としては同時に完成する予定だが、立地適正化計画は20年先を見据えたもの。対して地域公共交通計画は目前の課題への対応が求められ、時間軸が異なる。まちづくりのあり方として最終的には合致すると思うが、現時点では難しいと感じている。
- ◆ 骨子案34ページは、進捗に合わせて記載いただきたい。

※骨子案70ページ以降及び施策一覧について説明

- コミュニティバスの新規運行は、何台、何路線を検討しているのか。
- ▲ 公共交通網の再編は、今後、市がどれほど継続的に投資できるかだと考えている。事務局としては、本日の会議内容を踏まえ、市長や副市長、財政担当や関係部署と協議する予定。公共交通にどれだけ費やすか合意を図り、その予算の範囲でコミュニティバスやふれあい号の便数や台数、また適正な運賃設定を検討していく。
- 令和4年度中に運行開始としている以上、今年度中に予算的な方向性を決めないといけない。しっかりとした議論をお願いする。

- 3年後に道の駅が開業する予定があり、それと各地区の市民の意識も調査する必要があると思う。そういったことから、路線や台数が決まってくると思う。利用者がいないバスにならないようにしてほしい。
- ▲ 計画策定の目的としては、まちづくりのほか観光振興がある。道の駅についても重要な観光・交流施設となる。他の観光施設も含め、観光客が市内を周遊しやすい路線設計も視野に入れつつ、検討していきたい。

- 個人的には、従来の公共交通計画にコミュニティバスの運行を加えただけにしか思えない。あるものを整理する、ないものを足していくというのが通常の見え方かと思うが、単にコミュニティバスを加えただけ。問題は、ふれあい号をどうするか。私はドアトゥドアの移動手段として福祉の観点から存続いただきたいが、一方で福祉タクシー助成券も継続。そういったものを整理して、予算を削減していきながら新たな交通網をつくるのが本来の計画ではないのか。まちづくりや観光振興も理解できるが、市外

の病院に行きたいというのが市民のいちばんの声である。市外の大病院にかかりたいが、移動手段がないため通院できず亡くなっている方もいる。市内の病院では手術ができないとなると、近隣市の大病院に通える移動手段がほしいわけである。近隣自治体と連携して、常総市民が市外の病院に通えるようになるかが重要な課題であると思う。それが計画に入っていない。医療機関への移動手段確保と、福祉タクシーとしてのふれあい号の存続。この2点の解決なしに、市民アンケートでバスの要望が多かったからコミュニティバスを運行しますでは、今後の財政を圧迫するだけ。また、特徴的な計画でない、国も予算を付けてくれないのではないかと。

- ▲ 10年ほど前に策定した総合連携計画は、委員のおっしゃるとおり新たな移動手段を加えるだけの計画に留まり、無料の福祉循環バスに代わるふれあい号の導入のみを検討したものだ。ただ、今回の計画はあらゆる移動手段との整合性を図る必要もあり、特に民間交通事業者との重複については避けなければならないことをご理解いただきたい。また、市外の病院への移動手段については、骨子案50ページの市民の市内・市外の通院状況がほぼ同数ということから考えると、市外への通院を優先することで、市内の医療機関が衰退してしまうことも考えられる。ふれあい号で市外の病院まで行くとなると、その分市内の供給が手薄になってしまう。コミュニティバスで行くとなると、そもそもの運行目的を市内の活性化とするか、市外への通院手段とするかの整理をしなければならない。
- 難しく考えずに、隣接する自治体、つくば市や守谷市との境界までのアクセスを考えればよいだけ。市外へ乗り入れを検討する必要はないし、市内の運行で間に合う。近隣自治体と連携し、乗り継げるようなルートをつくるのが大事だと思う。また、市民は無料で公共交通を利用しようなんて思っていない。筑波大学附属病院までタクシーでは往復で1万円を超えてしまう。だからふれあい号をこれからどうするのか。市外へ行けるのか、たとえば車両1台を市外へ乗り入れ、利用者にくら補助できるのか。そういった具体的なことを考えればよいのではないかと。方法はいろいろあると思う。市内の医療機関を考慮することも大事かもしれないが、大病院でしか診療できないから行かざるをえない、でも移動手段がないというのが現状。関東鉄道の路線バスがあるところは別として、ない地域は、近隣自治体と協議して解決することも計画のひとつではないかと。
- ▲ 市外病院へのアクセスが不要ということではなく、どのようにしていくか考えていきたい。また自治体間の協議としては、3年前からつくば市を中心とした7市の会議にて、広域的な公共交通の連携等について検討している。ただ、各市内の需要を第一とした運行形態のため、結節点の設定や乗り継ぎの方法が具体化できていない。引き続き協議・検討を行うので、そういった事情もご理解いただきたい。
- そこは政治力を大いに使うべきではないか。行政だけでは困難なら、市長同士の話し合いによる解決も必要だと思う。
- ◆ 連携が重要というのはどの自治体も同じ。それをどう合意形成を図っていくか。頑張っていないといけない。
- ◆ 6つの課題に対し7つの施策としているが、産業振興との連携や工業団地へのアクセス、また先ほどの周辺自治体との連携などが漏れている。

- ▲ 本日いただいたご意見を反映させ、次回協議会で提案させていただく。
- ◆ 課題4にモード間の連携とあるが、モードの数が増えるほどどこで待つのか、どれくらい待つのかなどが重要になる。骨子案19ページを見ればわかるとおり、現状は網になっていない。軸をはっきりさせた交通網を構築しないと、立地適正化計画とも整合しない。ご検討いただきたい。

- 他市では驚くほどバスが運行していても、乗車人数は少なかったりする。何かうまくいっていないのだと思う。困っている人が安心して外出できるようになってほしいし、自治体間の連携も検討してほしい。何年も話し合っているのに何も変わらないのは悲しい。
- ◆ 私もガラガラのバスをしばしば見かけるが、もったいないと思う。効率的な運行を考えないといけない。

- つくば市のコミュニティバスは有料か無料か。
- ▲ 有料で運賃は200円から400円。

- 一早く計画策定に取り掛かっているのは素晴らしいと思う。皆さまの意見のとおり多様なニーズが想定されるので、その分析と交通事業者と調整を行ったうえで策定いただきたい。県内の優良例を紹介するなど、できる限り協力させていただく。

■ その他

なし

閉会 午後3:25